

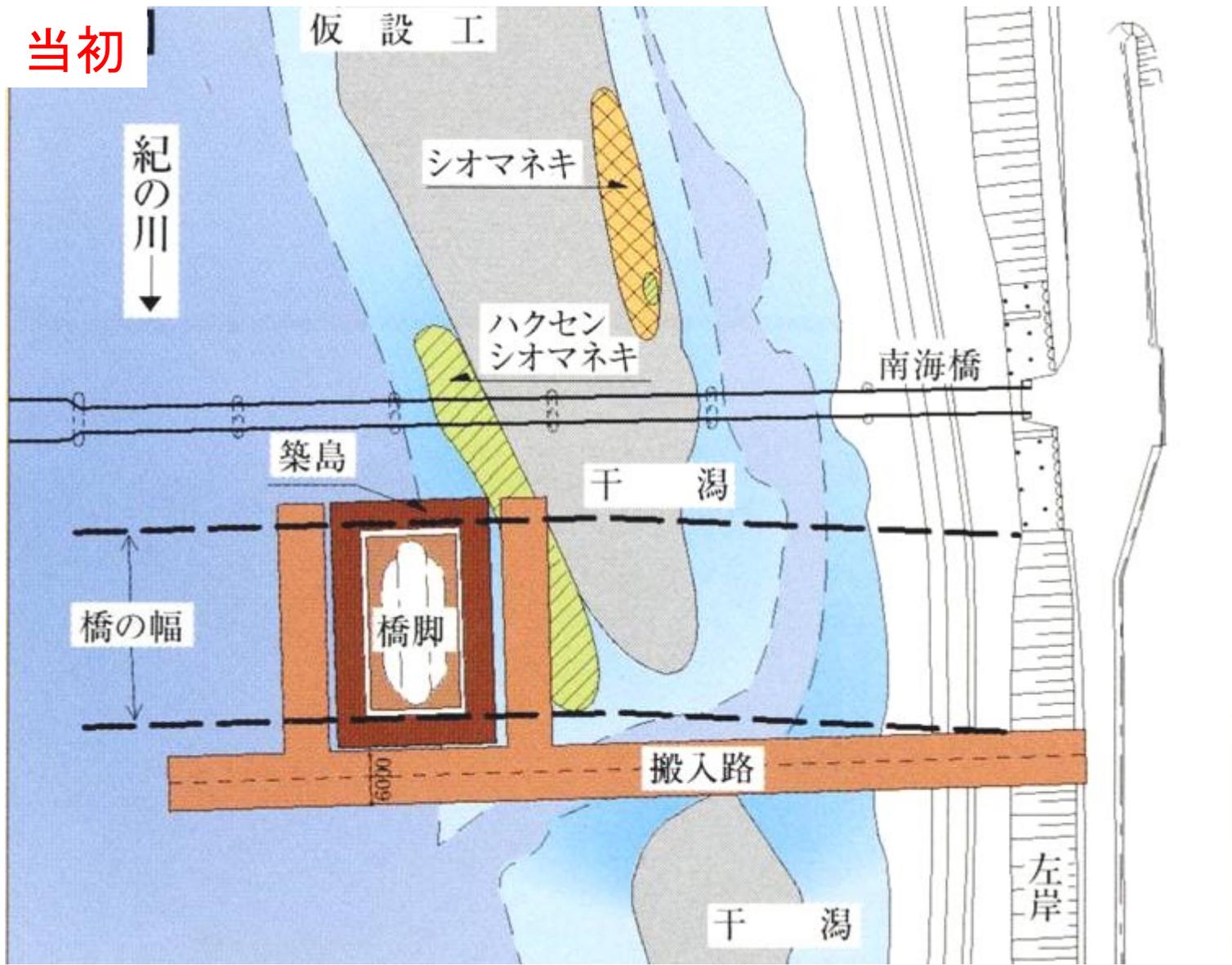
紀の川河口付近干潟

紀の川河口
付近



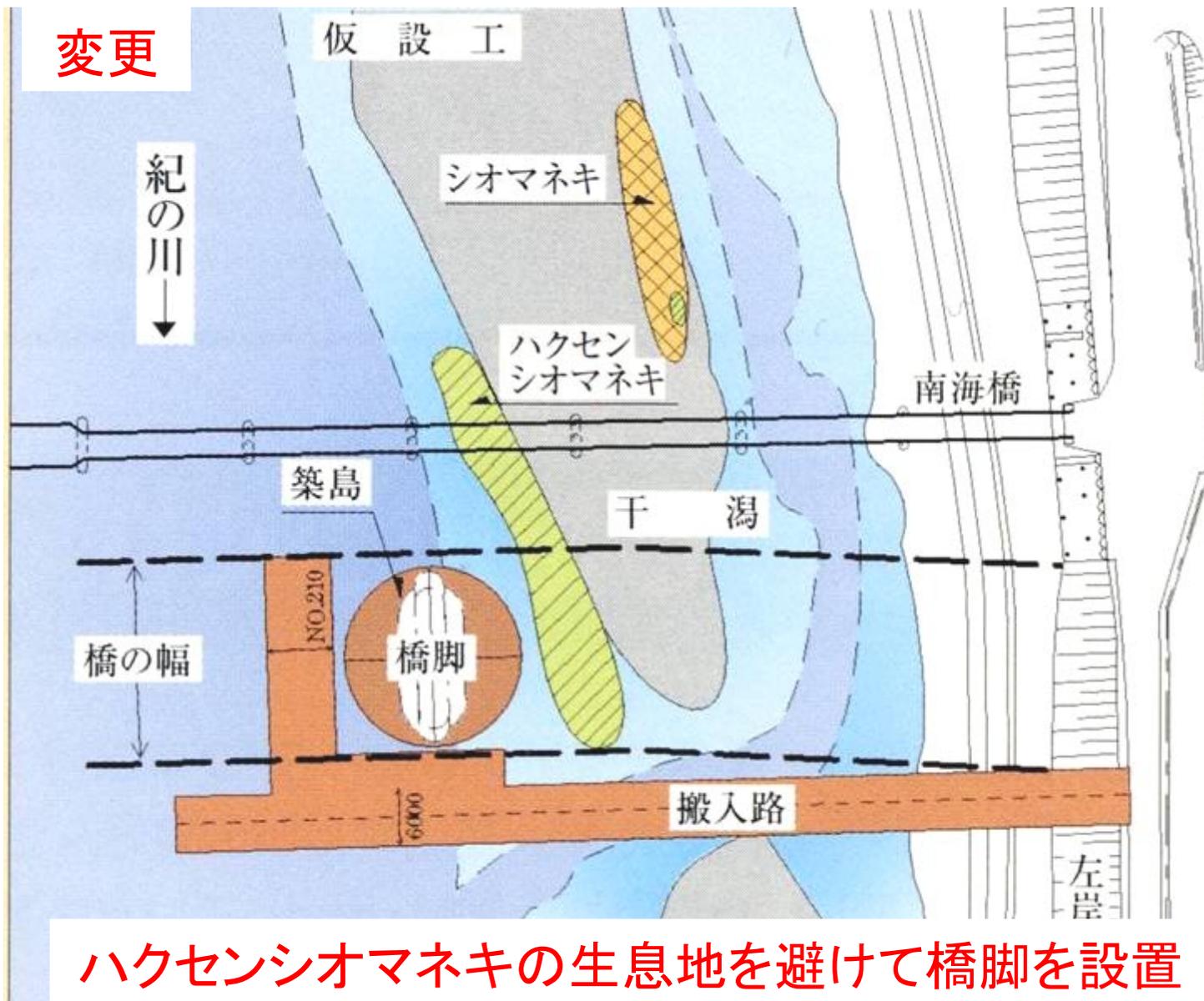
和歌山北バイパスの環境対策

紀の川河口
付近



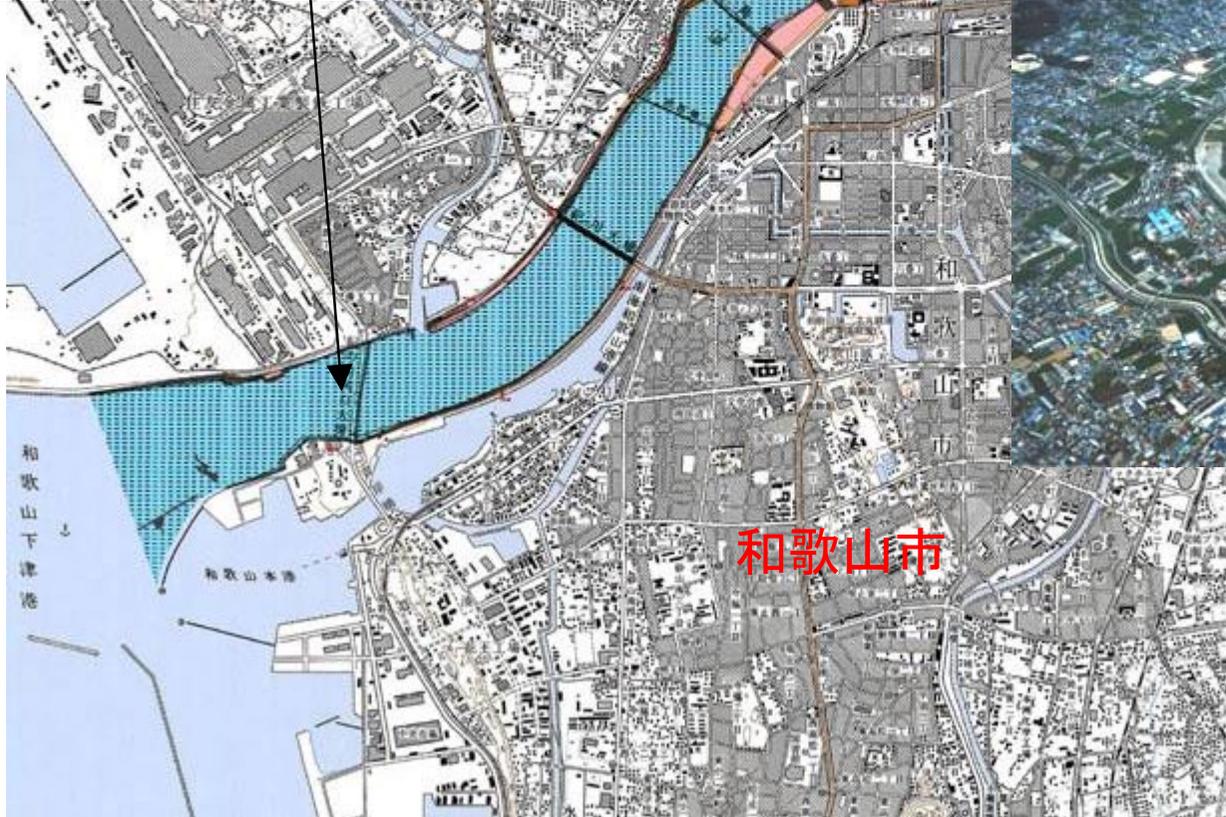
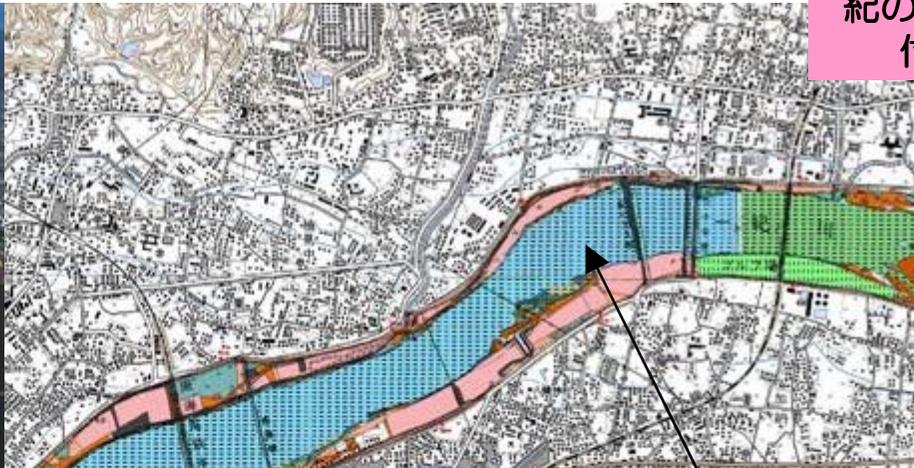
和歌山北バイパスの環境対策

紀の川河口
付近



ハクセンシオマネキの生息地を避けて橋脚を設置

紀の川河口
付近



凡		例		
植	水草		水 早瀬	
生	塩生植生		域	
状	ヨシ・ツルヨシ群落		状	
況	オギ群落		況	
	ヤナギ林		況	
	草本植生		干潟	
	低木林			
	高木林			
	植林地			
	耕作地			
	人工草地			
	人為裸地			
	人工構造物			

環境特性による区分	河口～新六ヶ井堰
環境の概要	汽水域で潮の干満による水位の変動がある。河岸の一部には干潟がみられる。
特徴的な生息環境	ヨシ群落・シオクグ群落、干潟が特徴的な環境となっている。
水生生物	スズキ・ボラ等の汽水魚、干潟に生息するシオマネキ、タイワンヒライソモドキ等がみられる。
陸生生物	カンムリカイツブリ、コアジサシ、カワセミ等の注目種がみられている。
植物	ヨシ等の抽水植物群落、シオクグなどの塩性植物がみられる。
特徴的な景観	ヨシ等の抽水植物群落、干潟。
利用	(高水敷利用)市民スポーツ広場・紀の川第1緑地・紀の川第3緑地・紀の川第4緑地・紀の川第5緑地・紀の川第8緑地・河西児童遊園・船所広場／(水面利用)漁業／(活動)釣り・散策・スポーツ等

代表的な種類(____は注目種)

(魚類)

スズキ、ボラ、エドハゼ、チクゼンハゼ、トビハゼ、メダカ、シロウオ

(エビ・カニ類)

ミナミテナガエビ、ハクセンシオマネキ、シオマネキ、マキトラノオガニ、台湾ヒライソモドキ、トリウミアカイソモドキ、ヒメケフサイソガニ、ウモレベンケイガニ、台湾ガザミ、モクズガニ

(貝類)

ヤマトシジミ、イシマキガイ、ウネナシトマヤガイ、ムシヤドリカワザンショウガイ、マルウズラタマビキガイ、マゴコロガイ、ソトオリガイ、カノコガイ、カワグチツボ、エドガワミズゴマツボ、フトヘナタリガイ、アカニシ、オキナガイ

(鳥類)

ユリカモメ、ウミネコ、カワウ、ミサゴ、カンムリカイツブリ、コアジサシ、チュウサギ、ハヤブサ、カワセミ、ハチクマ、タゲリ、コシヤクシギ

(植物)

ヨシ、セイタカアワダチソウ、シオクグ、カワヂシャ、キンガヤツリ、ウラギク

(昆虫類)

キイロカワカゲロウ

(小動物)

ハツカネズミ、イシガメ、カナヘビ、アマガエル、ヌマガエル



タイワンヒライソモドキ

イワガニ科。甲幅10～15mm。河川汽水域の潮間帯の石の下に生息する。大阪から台湾に生息するが、まとまった個体群としては、紀の川が北限となる。新六ヶ井堰下流部の生息地が紀の川大堰の運用とともに消失するため、代替生息地造成等の保全対策を実施。



ウモレベンケイガニ

イワガニ科。甲幅15～20mm。ヨシ原周辺の潮間帯上部の石や流木の下に生息する。紀の川における生息地は南海橋周辺に限られており、生息地は少ない。



シオクグ

カヤツリグサ科。海岸の塩水の出入りする泥地にはえる多年草。茎は高さ30～50cmで、花期は4～7月。



ウラギク

キク科。別名ハマシオン。茎は高さ25～55cmになり、花期は8～11月。海岸の湿地に群生する。